

はくあい

No.51

2020. January

社会福祉法人
京都博愛会

『第20回はくあい健康まつり』を2019年11月16日に開催しました

まつり当日は快晴のもと、多くの方にお越しいただき盛況となりました。写真：左（模擬店の賑わい）、下（ちんどん屋の演奏と演技）



健康講演会では「学んで防ごう尿失禁」をテーマに畿央大学理学療法科助教の梶原由布先生が講演されました。



新年を迎えて

社会福祉法人京都博愛会

京都博愛会病院 院長

金盛彦

あけましておめでとうございます。皆様におかれましては健やかな新春をお迎えになったこととお慶び申し上げます。

昨年は、平成から令和へと改元され、新しい時代の到来となりました。また、相次ぐ台風、豪雨など大きな自然災害に見舞われた年でもありました。

京都博愛会病院では、厳しい医療情勢のもとで病床稼働率の低下に苦慮した1年でしたが、皆様のご尽力で地域医療に多少とも貢献できたことを心から感謝する次第です。

精神科では、恒常的な病床稼働率の低迷が続いており、全国的にみても精神科医療制度改革として入院医療中心から地域生活中心への移行が進められており、収支の改善、安定化をめざして精神科病棟のダウンサイジングに踏み切りました。当初は混乱も予想されましたが、人員の適正配置により医療内容の質を高め、安定した病床稼働率を維持できるよう努力したいと思います。また、昨年はオーダ

リングシステムの更新も行われました。さらに一層、診療業務の効率化ができるように円滑な運用を心がけたいと思います。

本年は、団塊の世代が後期高齢者となる2025年までに実現を目指している「地域包括ケアシステム」の構築に向けて、当院でも京都府の策定した「地域医療構想」を踏まえて、引き続き病床の再編や適正配置の検討を進めていきます。さらに、老朽化した建物の耐震化や施設・設備の整備・改修など、様々な課題が待ち受けていますが、積極的に取り組んでいきたいと考えています。

少子高齢化そして人口減少社会に突入し、医療情勢もめまぐるしく変化していますが、地域に根差した医療・介護・福祉活動を目指して一層の努力を重ねていく所存です。皆様のご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

基本理念

【博愛】博愛の精神に基づいて、患者さまや地域の人々にやさしく、親しまれ、信頼される病院を目指します。

【協調】患者さまを中心に協調の精神でチーム医療を行います。

【健康】私たち自身の心と身体の健康に留意し、良い医療・介護・福祉を提供します。



画像・検査統合型 データ管理システムを 導入しました

富田病院 臨床検査科 井ノ上 ゆき子

当院では、昨年10月より、レントゲンなどの画像検査と血液や尿検査結果を一括管理するネットワークシステムを構築することで、診療の質と効率を向上させる体制が整いましたのでご報告いたします。

従来、院内で検査科が実施しております検査の結果は、用紙に印刷して報告していました。報告書の紛失の可能性、また、患者さんのお名前や診察券番号は手書きのため書き間違いの可能性がありました。

今回新しい機器、富士ドライケムNX700を導入す

るのを機に、エクセル・クリエイツ社のForz（フォルツ）システムを採用し、医事課、臨床検査科、放射線科をネットワーク化して患者さんの医療情報を一括管理することが可能となりました。

フォルツは、現場の要望に柔軟に対応可能なところが魅力のひとつです。富田病院に最適な、安全で信頼性の高い医療情報システム、診療支援システムの構築に向けて進化を続けるため、日々、スタッフ間のコミュニケーションを大切にしております。ご期待ください。



看護物語

「地域との架け橋」

京都博愛会病院 看護部 B3病棟主任 鈴木 貴尚

回復期リハビリテーション病棟とは脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等の病気で急性期を脱しても、まだ医学的・社会的・心理的なサポートが必要な患者様に対して、多くの専門職種がチームを組んで集中的なリハビリを実施し、心身ともに回復した状態で自宅や社会に戻っていただくことを目的とした病棟です。

当病棟の特徴として、育児・介護世代である40代を中心としたスタッフで構成されています。実際に自分達が育児・介護の経験があるからこそ、患者様だけでなく、突然介護者となるその家族が抱く不安や悩みを理解できることがあります。

看護師という立場だけでなく、同じ経験者として心を傾け、家族の生活にも視点を置いたアドバイスができるよう心がけています。

2025年には4人に1人が75歳以上という超高齢社会がやってきます。医療・介護・福祉等のサービス体制をより充実させると共に、地域社会との関わりが求められています。病気があっても、1人暮らしであっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしができるように、病院と地域の架け橋となれるよう、職種を越えて力を合わせていきたいと思っています。





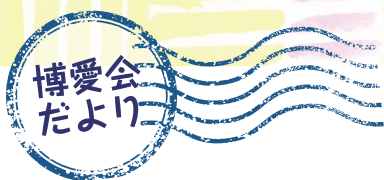
わが町のホームドクター

「地下鉄階段の中央を登る」

北区 稲垣 智司

今春、四条へ買い物に出かけ、帰り道の事、地下鉄北大路駅の長い階段を、人の流れに沿って上っていました。いつもは膝をかばい手すりのある両端を利用していましたが、この時は無意識に階段の中央を登り切っていたのです。「関節炎が治った」のに気づきました。

私は現在86歳、平成25年に、京都ヴィラに入苑し、年相応の病気とも付き合っていた私は、まず協力医療機関の博愛会病院を訪ねました。最初は内科の富田哲也先生の診断を受け「脂質異常症」の治療、その後「不整脈」を発症し、富田病院で心臓CTの検査を受け「脳梗塞にはなりにくい」との診断結果で、一安心でしたが、不調は続き苦しみました。幸い私に合う薬に出会い、徐々に回復し、現在は全く不整脈が起きず、先生の御蔭で命拾いました。その後、膝の不調で整形外科の三島先生、栗山先生、青山先生を煩わせて、6年間にわたって治療をしていただいています。三島先生から「80歳でも歩けば筋肉がつくよ」とアドバイスを頂き、以降、毎朝幡枝神社、北稜高校付近を歩くのを日課としています。その効果が、先日の地下鉄階段の中央部を歩けたことにつながったのだと思っています。先生方はじめ、病院・施設の多くの人のご助力に感謝しながら、これからも私に与えられた道を懸命に歩んでいきたいと考えています。



褥瘡治療で困ってませんか？

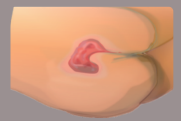
褥瘡が治らないと、感染のリスクも高まり、全身状態にも影響します。また、毎日の処置は看護や介護の大きな負担になります。そんな地域の皆様に役立ちたいと思い、富田病院では重度の褥瘡患者様の受け入れを積極的に行っています。

難治性褥瘡の治療には最適な環境と、治癒を促す材料が必要です。当院では褥瘡ケア・褥瘡治療の技術に長けた専門のチームが、最新の処置で、治りにくい褥瘡を短期間で集中的に管理します。

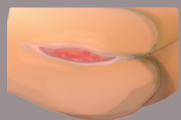
こんな状態の方は
ご相談ください

- ▶ 範囲が広く、毎日の処置が大変
- ▶ 何年も治らず、治癒のきっかけがない
- ▶ ポケット形成しており、中々閉鎖しない

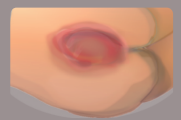
軟膏ガーゼで
なかなか治らない



皮膚が欠損していて
滲出液が出ている



創が大きくても
大丈夫



地域連携室に連絡いただき症例写真など褥瘡の状態が分かる資料を送付ください

頂いた資料を確認し病院からご連絡させていただきます

入院のご説明・手続き

入院後治療開始

治癒・改善

ご依頼元へ退院・転院

※まずは富田病院地域連携室へお問合せ下さい。

富田病院 地域連携室 (直通 TEL: 075-491-3242 FAX: 075-491-7307)

京都博愛会病院

医療講話 ～うつについて～

令和最初の「岩倉幡枝楽生会医療講話」は、9月3日、岩倉幡枝公民館で開催されました。「うつについて」をテーマに、当院精神科医長の荒木賢介医師が講演しました。

講話の内容は、うつの症状や、そこから派生する妄想や体に現れる症状、うつが発症しやすいイベント、治療について等でした。

うつによる自殺は、病状が良くなりだしてエネルギーが回復し始めた頃に多くなること。うつの人との接し方については、「共感」がポイントになること。うつの相談を受ける人にも負担が大きくなる為、相談できる人がいる方が良いこと。もし身近な人がうつを発症した際の注意しなければならないポイント等を分かりやすく説明されました。

人間関係が複雑になってきた現在、うつは身近な病気になっています。特に就労している人は、職場復帰を急いでしまいがちですが、改善が見られた後も無理をするとぶり返し、再発率も再発を繰り返すたびに高くなるということです。

本人も周りの人も、治療には時間がかかる病気であることを認識する必要があると感じました。

(京都博愛会病院 相談室 野間泰年)



富田病院

医療講話 介護とうつの話 ～介護ストレスの軽減のために～

令和元年10月24日、富田病院に隣接する安楽荘にて第18回目となる医療講話を開催いたしました。今回は、「介護とうつの話～介護ストレスの軽減のために～」と題し、昨年4月より心療科を担当して頂いております、柴田真美医師に講演して頂きました。

最近では認知症の方の受診が増え、ご家族も熱心に介護されている方が多くおられます。介護者自身が悩みや悲しみを抱えておられると思いますが、そういったお話を聴く機会はそう多くありません。要介護者は年々増加し、介護負担は仕方がないでは済まなくなっています。介護負担とは孤独感などの情緒的、腰痛などの身体的、介護離職などの社会および経済的活動が介護により被った被害のことです。また、昼夜逆転や徘徊などが重なると介護負担が増し、介護者がうつや不安に陥り、在宅生活が中断されるなど双方に悪い結果をもたらします。介護ストレスに対処する5つの方法を参考に自分に合った方法でストレスを軽減しましょう。介護負担も、患者さんの症状を知る大切な情報ですので、つらいと思ったら遠慮なく相談してくださいとのことでした。

参加者の中に実際に介護に直面している方やおられ、講話後も積極的に意見を交換されていました。皆様の今後のより良い生活に繋がられたのではないかと思います。

(富田病院 相談室 三木一美)



京都博愛会病院

TEL:075-781-1131 〒603-8041 京都市北区上賀茂ケシ山1
<http://www.kyoto-hakuaikai.or.jp/hakuai/>

富田病院

TEL:075-491-3241 〒603-8132 京都市北区小山下内河原町56
<http://www.kyoto-hakuaikai.or.jp/tomita/>

訪問看護
ステーション はくあい

TEL:075-491-2711 〒603-8041 京都市北区上賀茂ケシ山1
http://www.kyoto-hakuaikai.or.jp/hakuai_nursing/

デイケアセンターとみた

TEL:075-491-0700 〒603-8132 京都市北区小山下内河原町69
http://www.kyoto-hakuaikai.or.jp/tomita_care/